

中島会頭 Q&A

中島会頭が今までに受けた質問とその回答を厳選して、一覧にさせていただきました。

J C を続けていくうえで重要なヒントや答えが記載されています。

是非、ご覧になっていただき、今後の J C 活動の糧にしてください。

ジャンル	ミニタイトル	質問内容
		回答
運動	成功のイメージ	<p>【大会の成功とは何か】</p> <p>VISONに近づく礎となったか、まちや人は1日では変わらないが、変わるきっかけをどれだけ植えられるか、というお言葉をいただきました。</p> <p>ブロック大会を主催いたしますが、やりたいこととやるべきことが整理できていない、どうなったら成功なのかがイメージできないことで悩み続けております。</p> <p>もう少しだけお言葉をいただけないでしょうか。よろしくお願いいたします。</p>
		<p>最大のポイントは、「運動のストーリーの中に、大会が組み込まれているか」ということです。</p> <p>今まで多くの大会に参画をしてきましたが、残念ながら、中には「大会を開催し、成功させる」という手法が、目的化しているなあと感じることもありました。</p> <p>もちろん、大会の成功は大切な事なのですが、それにも増して、「大会を通じたまちづくり」こそが、JCに求められていると考えています。</p> <p>単に、集客し、地域のことを知ってもらい、地域にお金を落として頂くという目的だけであれば、コンサート等、他の大きなイベントでも良く、JCがやる必要がないのかもしれませんが。</p> <p>「こんなまちをつくりたい」というビジョンがあり、そのビジョン達成の大きなストーリーの中に、各大会を位置付けることができれば、1回こっきりのイベントから脱却できるものと思います。</p>

運動	短期間の成果	<p>会頭所信を聞いて、私たちがやらなければいけない事は理解できました。今は、昔みたいな海外ミッションで子ども達に同じ体験をあげ合わせることはできないと思いますが、LOMに落とし込んだ時、同じとは言えませんが同様の事業ができると思い、8月に開催する予定です。子どもたちにインパクトある体験をしていただき、非認知能力（学力以外の能力）を付けていただこうと思っていますが、最近の事業は昔みたいにキャンプをしたり、3泊4日で子どもを預けることが心配であり、1日の事業がメインになってきてます。短い時間だと、成果を上げることは難しいと思いますが、経験をした会頭はどのように考えますか？</p>
運動	存在感 市民からの理解と共感	<p>現状、本当に市民から我々の存在がどれほど必要とされているのかわかりません。少なくとも多くの市民から我々の活動に理解と共感を得るにはまだまだ時間がかかると感じています。そんな中で、時々我々がおこなっている活動はもしかすると自己満足なのではないかと不安になることもあります。今まで以上に市民から理解と共感を得ることができ、我々の存在意義を高めていくにはどのようにして行くことが重要だとお考えでしょうか？</p> <p>具体的にまちをより良くしているという成功体験を、一人でも多くのメンバーが、またLOMがもつことだと思います。自己満足は、青年としてゼロにすることは難しいとも思いますが、一方で、まちをより良くすることに貢献したという成功体験を、事業・運動を通じて、メンバーが感じる事ができれば、必ず、市民からの共感を得られ、JCの存在価値は増していくと思います。</p>

<p style="text-align: center;">運動</p>	<p style="text-align: center;">20～40歳までの青年が運動を行う意義</p>	<p>20歳から40歳のメンバーで構成されていることが青年会議所の最大の特徴だと考えております。なぜ、「青年」が運動を起こさなければならないのか、について会頭のお考えをお聞かせ願えますでしょうか？</p>
		<p>いくつか理由が考えられますが、その中でも最も重要なポイントは、次のまちをつくる責任世代だからです。</p> <p>もちろん、多くの世代がまちづくりに参画すること、運動を起こすことは大切なことですが、私達20歳～40歳の若者は、平均年齢に照らし合わせると、これから40年～60年程、そのまちで生き続けることになることが多いかと思えます。</p> <p>そして、まだ、自らの力でまちをより良くすることが（経済的・経験的に）かなわない「小さな子供」をもつ世代でもありません。</p> <p>だからこそ、私たち青年が、まちをより良くする運動を起こし、自分たちも、そして子供達も愛し、住み続けることができるまちづくりを運動として起こさなければならないのではないのでしょうか。</p> <p>70年の歴史の中で、その力も役目もJCはもっています。一緒にこのプラットフォームを使い倒すことができれば有難く、嬉しく思います。</p>
<p style="text-align: center;">運動</p>	<p style="text-align: center;">周年</p>	<p>本年、創立60周年を迎えます。創立60周年代運動指針(別紙)のもと運動を展開していくにあたり、会頭所信にもあります「幸せを生み出し続ける装置」との方向性との比較、また、結果としてどのような効果が得られるのか会頭のお考えをお聞かせください。</p>
		<p>幸せを生み出し続ける装置とは、つまり、「JC運動」の事です。</p> <p>JC運動という言葉だけでは、JC運動が何なのか、昔の私はわかりにくいように思っていましたので、概念がより分かりやすくなるように工夫させて頂きました。</p> <p>幸せを生み出し続ける装置、つまりJC運動とは「ヒト・モノ・カネ・情報等が集まり、JCの手を離れても自走し続ける仕組み」の事です。</p> <p>何故、装置化する（自走する）必要があるのか。それは、理事長の所信にも書いておられる通り、単年度制を採用する組織だからこそ、自走しなければ、1年間の自己満足に陥りかねないからです。私の所信にも書かせて頂きましたが、その自己満足の中で私自身が失敗しています。</p> <p>人財・地域・国際・組織、それぞれの観点から、各事業が、「どうすれば、自走するのか。JC運動たりえるのか。私（役職）がいなくなっても幸せを生み出し続けるのか。」に、より一層、LOM内で議論を深められますと良いかと思えます。</p>

<p style="text-align: center;">運動</p>	<p style="text-align: center;">Web会議</p>	<p>今後運動を展開していくにあたり、Webであっても、対面に匹敵するような意識の共有を行い、同じ志をもつ仲間を増やしていくうえでの心構えや行動等、愛のあるコミュニケーションを実践するために会頭のお考えをお聞かせください。</p>
		<p>まず申し上げたいことは、JCでの出会いや意識の共有等、核心の部分は、その全てをWEBでは満たすことができないと私は考えています。</p> <p>ご案内の通り、WEBには余白がありません。必要なものが、必要な時間の中で整理されます。対面であれば、本題以外の部分でメンバー間の化学反応が起きやすく、より一層の発展と成長の機会が提供されます。</p> <p>ですから、目的や事情にあわせ、WEBと対面の両方をうまく使いこなすことが大切になるのではないのでしょうか。</p> <p>例えば、ご家族に高齢の方がいらっしゃる、医療に従事される等のご事情があります方には、面談を対面で行いたいと考えていても、あえてWEBで開催する等、相手の事情によって配慮を重ねれば、きっと愛のあるコミュニケーションになるはずです。その愛は、言葉以外の部分で、必ず相手に届くものと思います。</p>
<p style="text-align: center;">運動</p>	<p style="text-align: center;">ビジョン策定方法</p>	<p>ビジョンを策定すること自体が目的になりかねないと考えています。そうならないためにもビジョンの策定方法の共有が必要と思います。今後JCI日本から共有があるのかもしれませんが、そもそもビジョンの策定方法には、書籍からわかる方法、青年会議所に伝わってきている方法、あるいはそもそもそのような定説的なものはないという考えもあるかもしれません。そこで、JCIを離れて、会頭が考えられるビジョンの策定方法がありましたら、できるだけ具体的にご教示いただければと存じます。</p>
		<p>おっしゃる通り、ビジョンを策定すること自体は目的ではなく手法ですので、その策定方法が極めて重要です。</p> <p>現在、日本青年会議所ビジョナリーシティ会議が、その策定のためのサポートを、外部アドバイザーと行っております。</p> <p>また、日本青年会議所公式YOUTUBEに、京都会議で公開させて頂いたビジョン策定の方法をアップしております。そちらもあわせてご確認いただけましたら有難く思います。</p>

運動	現地参加の意義	<p>コロナ禍になり、リモート会議等が急速に普及した中で、3大大会に現地にて参加する意義を今一度お聞きしたいです。</p>
		<p>この様な社会環境下ですから、WEBでの参加も機会を得る点で、大変素晴らしい事と思います。それを前提にお話申し上げると、WEBと直接対面の最大の違いは「余白の有無」だと考えています。現地で直接会うことは、人と人との余白部分、つまり予期せぬ出会いや対話を生み出し、そのご縁が深まりやすいのではないかと思います。それぞれのメリットを整理しつつ、WEBと現地のバランスをうまく取りながら開催することが必要なのではないのでしょうか。</p>
運動	会員拡大	<p>JCの基本運動としている会員拡大は何故行わなければならないのか。また、会頭の考える会員拡大の各LOMに対してのメリットは何でしょうか。</p>
		<p>JCは、JCIMMISSIONにあります様に、まちの青年に「発展と成長の機会を提供する」「まちをより良くする運動をつくる」ということを使命としています。つまり、青年にその様な機会提供をするプラットフォームと言えるでしょう。だからこそ、拡大という「手法」を通じて、このプラットフォームを一人でも多くの青年に活用いただく事が、拡大の真の目的です。LOMにとっては、まちづくりという運動に対する最大の共感者を迎え入れることとなりますので、より一層、まちづくり・ひとづくりに集中することができます。</p>
運動	ウェルビーイング	<p>ウェルビーイングは、世界的にはスタンダードになりつつありますが、日本ではあまり浸透していないと考えております。健康と環境を整えることでモチベーションアップや組織力の向上につながると考えるなか会頭のお考えをお聞かせください</p>
		<p>おっしゃる通り、ウェルビーイングの必要性は、ヨーロッパを筆頭に世界へ広がりつつありますが、日本においてはまだこれからです。</p> <p>私が、会頭所信を書く中でウェルビーイングを強く意識したのは、もちろん前年度の重要な運動ということもありましたが、2021年のダボス会議で、ウェルビーイングが最重要テーマの一つとして取り上げられたためです。</p> <p>ご覧になっているかとは思いますが、ダボス会議のホームページに、日本語のものもありますので、そちらをご高覧頂けたらと思います。</p> <p>日本国内でも、SDGsの次の世界的な目標にすべく、慶応大学を筆頭に、その研究と企業への実装準備が進められているところです。</p> <p>申し上げるまでもなく、企業活動もJC運動も、「人」が生み出します。その「人」が、幸せを感じ、生産性高く、クリエイティブに仕事ができれば、より良い結果が生まれます。</p> <p>ですから、あらゆる組織において、ウェルビーイングは求められるものだと私は考えています。</p>

所作	意識をしていること	JCでの活動以外も含めて、一般人と接する際の立ち振舞いや会話の仕方において特に意識していることがありでしたらお聞かせいただきたいです。
		<p>私自身、まだまだ勉強中で、「ミスった」と思うことがよくあります(笑)</p> <p>私が自分自身に戒めていることは、「全ての人を尊重する」ということです。また、「偉い人はいない。何より私自身は偉くも何ともない」ということも気を付けています。</p> <p>全ての人との出会いを大切にしたいと心から思っております。</p>
所作	会頭就任時の心境	会頭の話が来た時の心境を教えてください。
		<p>正直、自分で本当に大丈夫かと思っていました(笑)。しかし、会頭職を預かれるならば、挑戦したいことが数多くありましたので、勇気を振り絞って臨んだということが本音です。</p> <p>会頭にせよ、会長にせよ、理事長にせよ、委員長にせよ、「長」がつくりリーダーを受けるには、どうしても覚悟が必要となります。その覚悟をもつことができなければ、きっと役割に飲み込まれてしまうのではないかと思います。</p>
所作	時間軸設定	JCの会頭として時間軸をどこに設定をして事業を進めていますか？
		<p>私の場合、その時々によってかなりバラバラになります。会頭としてJCに優先順位を置くことが多くなっていますが、会社でのやるべき仕事も決しておろそかにできません。また、家族との時間も大切にしています。となりますと、自然、睡眠時間を削って時間をつくるしかなくなり、会頭になってから、朝が物凄く早くなりました(笑)</p>
所作	挨拶	挨拶で気をつけている事はどんなことでしょうか
		<p>相手に届くボール（言葉）を選び、投げるということです。自分の話したい事、また話すべきことが、相手の心に届くかを考え続けています。日本青年会議所の公式YOUTUBEに、「相手に伝わる秘訣」というyoutubeをアップしていますので、もし宜しければ、そちらをご確認頂けたらと思います。私なりのノウハウを詰めております。</p>

所作	コントロール	<p>成長すればするほど、自分にしか出来ないことが増え、頼られ、負担が増えていく。頼られることはありがたいことだか、ワークライフバランスを維持するにはどうしたら良いですか？仕事を追いかける立場ならコントロール出来るが、上から下から仕事而降り注ぐなかで、仕事に追われ続ける立場だとコントロール出来ず悩んでいます。組織が変わらないとしたら、自分が変わるしかないと思うのですが。</p>
		<p>おっしゃる通り、成長すればするほど、より重要な仕事を任されるようになり、時間コントロールや優先順位のつけ方が難しくなっていくことがあります。私は、その様な時、属人性をできる限り排除し、仕組みで解決するようにしています。または、人に役割と責任を渡す権限移譲を試みます。そうすることで、また別の方に成長の機会が受け継がれていくのではないのでしょうか。</p>
所作	やってはいけない事	<p>会頭の経験または見てきた中で、これだけはやってはいけないJC活動・運動は行動的、精神的、金銭的にどのようなモノがありますでしょうか。</p>
		<p>JCの最上位目的である「ひとづくり」と「まちづくり」から外れたものは、基本的に、あまり意味をなさないのではないかと私は考えています。一所懸命事業をつくったけれど、結果、まちやひとがより良くなったかわからない、私はそれを「JCごっこ」と呼んでいます。その様なことをやめることができれば、JCでの時間は、より充実するのではないのでしょうか。詳しくは、私の所信に書いていますので、もし宜しければ、日本青年会議所公式ホームページからご覧頂けたら有難く思います。</p>
所作	会頭として最も意識 をしている事 就任前後の意識の 変化	<p>会頭をする上で、最も意識している事は何ですか。また、会頭になられる前と後で、自身の中で変化はありましたか。</p>
		<p>最も意識していることは、「それが本当に国の、まちの、人のためになるか」ということです。上記他のご質問の様に、私は、JCごっこを少しでも排除したいと願っています。だからこそ、具体的により良い方向に向かっているかを、会頭として、リーダーとして常に気を付けています。</p> <p>自身の変化はありました。仕事の時間をつくるために、朝が物凄く早くなった(笑)ということは、大きな変化です。</p>

支援	人道支援	<p>ウクライナへの人道支援について、各LOMが募金など動いていますが、NOMとして動いてJCの価値や意義を発信できないのか。と感じています。ブロック単位でも地区単位でも組織の力でこういう時に動けないのか、ともどかしさを感じています。ウクライナ人道支援についての今後の展望などお聞かせ頂けると幸いです。</p>
		<p>現在準備を進めていますのは、ウクライナから避難されてきた方への支援です。 金銭的な支援や、生活支援もちろん大切なことですが、避難されてきた方が、今後、まちや市民の皆さんとどのように共生されていくかにフォーカスしたJCならではの支援ができないか模索中です。 近々に公開、また、全国のLOMの皆さんへ協働できないか相談させていただきますので、その際は、是非ご検討ください。</p>
支援	負荷感と応援	<p>発展と成長の機会が青年会議所にあるということは理解し、自分は取り組んでいるつもりだが、どうしても負担感が先行するメンバーもいると思います。どのように背中を押してあげたらよいか、ご教授ください。</p>
		<p>私の場合は、うまく役割を提供するように心がけています。私自身、多くの役割の中で、小さな成功体験を積み重ね、発展と成長の機会を頂くことができました。負担感が先行することは、運動を起こす組織として中々避けられないのかもしれませんが、一方、役割の中での成功体験によって、その負担感を超えていくことができるのではと思います。温かく背中を押して参りたいものです。</p>
育成	鼓舞の方法	<p>メンバーをどのように鼓舞しているのか？また、自分自身をどのように、奮い立たせているのか？</p>
		<p>私は、メンバーにも私自身にも「使命感」をもつ様に鼓舞しています。 「何故、何のためにやるのか」を、自分自身が心から納得していれば、それが内発的な動機となり、後は勝手に動き始めます。 私は、せっかく縁あったJCを通じて、まちと故郷をより良くするというを、会頭として最大の使命としています。</p>

育成	熱量	<p>卒業まで長いんだから最初から頑張る必要はない」と先輩に言われることが多いのですが、私は11年というJC歴を全力で走り抜きたいです。</p> <p>人や地域の為に尽くして頑張る事は私にとっては楽しい事です。</p> <p>しかし、先輩たちが言うようにずっと同じ熱量で頑張り続けるといつか疲れてJCが嫌になってしまうのではないかと不安にもなります。</p> <p>どのような心持ちであれば、JCを悔い無く全うする事ができると思いますか？</p>
		<p>全力で走り抜きたい、本当に素晴らしいことだと思います。申し上げるまでもありませんが、マラソン42キロ走って疲れ果てる人もいれば、最後まで走り抜くことができる人もいらっしゃいます。どちらも、挑戦をされているという点で尊いことだと思いますが、私自身は、後者でありたいと願ってきました。</p> <p>最後まで走り抜くには、何故何のためにやるのかという「ブレない志」と、「やり抜く覚悟」が必要だと思います。</p>
育成	地域への展開	<p>日本青年会議所での取り組みを地方に繋げていく際、一番どの部分を大切にしているのでしょうか。</p>
		<p>LOMが、そして、まちが何を必要とされているかを、まず理解することだと思います。ニーズを理解し、求められている役割を探り、それを丁寧に実行することが大切なのではないでしょうか。それを最重点項目とし、会議委員会の皆さんと運動をつくるようにしています。</p>
育成	一体感	<p>LOMの一体感を出すにはどうすれば良いですか。</p>
		<p>理念の共有がもっとも大切だと考えています。もちろん、それぞれのJC観はあってしかるべきなのですが、ベテランから新入会員まで、誰に聞いても「JCの理念」をきんたろう飴の様に同じ回答がでるまで、組織として「教育」することが大切なのではないでしょうか。詳しくは、日本青年会議所公式YOUTUBEに、今年3月の総会フォーラム1で、そのことを私が対談していますので、宜しければご覧ください。</p>

育成	愛と希望	『愛が希望に変えていく』会頭の思い描く『愛』と『希望』を具体的にお教え下さい。
		<p>私の考える「愛」とは「無条件の奉仕」、希望とは「明日は今日よりも良いという望み」のことで。</p> <p>愛は、積年の哲学者や宗教家が定義しようとしてきましたが、いまだ、これだけというものはありません。だからこそ、「自分でどの様に定義するかが大切」だと思います。</p> <p>私は、JCの出会いの中で、無条件の奉仕ができるようになりました。こうしてくれたのは、「先輩方の私への無条件の奉仕」つまり、愛だと思います。</p>
育成	伝え方	<p>発展と成長の機会を与えることについて、自身の経験に裏打ちされることが多いですが、時代や考え方の変化により与える人自身の変化や、青年会議所の在り方の変化も求められているも思います。苦労はさせたくないが苦労は成長の糧になる。こと点をどう伝えればいいかが自身の課題だと感じています。</p>
		<p>おっしゃる通り、最も恐れるべきは「自身の成功体験」だと私は思います。何故なら、自分の成功体験が他の方にも当てはまるとは限らないからです。</p> <p>私は、発展と成長を提供する際、苦労させることを目的とするのではなく、あくまでも「まちをより良くする運動」の中で、結果的に苦労をし、結果的に成長できたという流れが良いと思います。</p> <p>ウィービリーブ2月号の工藤先生と私の対談に、「最上位目的に返ることの大切さ」について記事がありますので、宜しければ参考にしてください。</p>
育成	無償の愛	<p>無償の愛というのはなかなか難しく、やはりどうしても見返りを求めてしまうように思います（SNSにアップしてイメージアップを狙うとか）中島会頭が現在の境地に至るために必要なことは何だとお考えか教えていただきたいです。</p>
		<p>「すべてにおいて」見返りをもとめないことは、聖人でなければ難しいのかもしれませんが。</p> <p>一方、まちをより良くする運動を起こす、所信を書く等、JCの多くの出来事の中で、「世のため、人のため」に力を尽くしている瞬間が必ずあるはず。それは、きっと愛、無条件の奉仕だと思います。</p> <p>JCの中で、全て無条件の奉仕となるわけではなく、無条件の奉仕の「割合」が増えていくことが素晴らしいことなのではないでしょうか。</p>